

第三者評価結果入力シート（児童心理治療施設）

種別	児童心理治療施設
----	----------

①第三者評価機関名

社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK18149
B24146

③施設名等

名称	みらい
施設長氏名	奥田 隆行
定員	30名
所在地(都道府県)	和歌山県
所在地(市町村以下)	和歌山市つつじが丘7-2-1
T E L	073-460-8058
U R L	torafusugakuen@able.ocn.ne.jp

【施設の概要】

開設年月日	2009/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人 虎伏学園
職員数 常勤職員	24名
職員数 非常勤職員	2名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数	7名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（オ）	調理師等の福祉サービスの提供者
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称（カ）	個別対応職員・家庭相談員
上記有資格職員の人数	2名
施設設備の概要（ア）居室数	16
施設設備の概要（イ）設備等	複合施設（児童養護施設、和歌山児童家庭センター、児童心理治療施設）
施設設備の概要（ウ）	親子訓練室
施設設備の概要（エ）	施設内に分校（学校教育）を併設している

④理念・基本方針

<p>（理念）わたしたちは、すべての生命の尊厳を基軸に子どもひとり一人の思いに寄り添い、人と人との関わりを大切に社会性を養い「生きる力」を育みます。</p> <p>（基本方針）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複合施設の特徴を発揮できるように、児童養護施設「つつじが丘学舎」、児童心理治療施設「みらい」、和歌山児童家庭センター「きずな」の持つ機能を有機的に活用する複合的な運営を行う。 2. 社会的・家庭的養護を担う施設として、可能な援助方法の確立と心理的ケアと連携した専門技術の確立を図る。 3. 福祉、心理治療、教育のチームアプローチによる総合環境療法の中で、情緒的に行き詰まりを感じている子どもとその家族に総合的・多面的に援助を行う。

⑤施設の特徴的な取組

<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合環境療法を基本とし、子どもを取り巻く環境の中で行っている心理治療や生活支援、学校教育など全ての活動を治療と位置付けて、子どもに関わる全ての職種が連携協働しながら子どもの治療目標を達成出来るよう、子ども本人はもとより、家庭復帰に配慮した保護者や家族支援も実施している。 2. 児童相談所のアセスメントをベースとして、入所後の児童の様子を丁寧に観察し情報共有を行いながら、各職種がそれぞれの視点で支援計画を策定している。 3. 虐待やネグレクトなど不適切な養育体験等に起因する子どもの心理的問題の解消や軽減を図り、心理担当職員と児童指導員が方針を共有する治療の生活の場が提供されている。常勤の心理担当職員が4名配置されていて子どもが週1回個別にセラピーを受けることができ、月4回児童精神科医の訪問相談を受けられる体制がとられている。施設の敷地内に小・中学校の分校が設置されていて、学習支援、生活支援について相互に協力して行われている。施設に通所の機能はないが、建物の続きに母体法人が運営する児童家庭支援センターが併設されており、連携により家族支援や退所後の連携支援が行われている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/5/22	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/4/9	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度	

⑦総評

(特に評価が高い点)
 1、敷地内に小中学校の分校があり、職員が連携・交流を深めながら学習面での支援が行われている。また子どもによっては地域の学校へ通学するなど実態に合わせて柔軟な対応を行っている。
 2、施設長は自らの経験を生かし支援の現場にも積極的に出向き、子どもと直接触れ合うなど信頼関係を築くとともに、現場職員との対話を通して施設の現状把握を行い改善に向けた提案を行うなど真摯に運営と管理に取り組んでいる。職員も真摯に子供と向き合い子どもに寄り添い治療・支援を行っている。また、子ども一人ひとりに担当する生活担当職員が決められており、担当する子どもとの距離を近くとり信頼関係を築いている。
 3、敷地内には同法人経営の児童養護施設があり、児童家庭支援センターを併設して連携しながら入所児童及び保護者の相談に対応するとともに、地域住民の相談や課題にも対応するなどの取組を行っている。

(改善が求められる点)
 1、事業計画の策定
 中・長期的ビジョンという視点での事業計画策定を期待する。
 中長期計画及び単年度での事業計画は策定されているが、各計画との連動性が見られない。単年度計画との整合性をもった具体的な実践につながる中・長期事業計画を策定することが望まれる。さらに計画策定に当たっては、児童心理治療施設を取り巻く社会情勢の把握や、社会的役割と目的、将来像を明確にし、組織体制、職員体制の充実を図る取り組みを期待する。
 2、福祉人材の確保・育成
 職員一人ひとりの目標を明確にし、治療・支援の質の向上につながるより質の高い職員の育成を期待する。
 外部研修への積極的な参加の推奨など職員研修は実施されている。今後は職員一人ひとりの目標を明確にした研修計画を立案し、研修・教育・スーパービジョンを実施し、さらなる知識・技術の向上を目指すことを期待する。
 3、親子関係の再構築支援等
 虐待事例が多数を占めることから、保護者支援や家族療法への取組の工夫を期待する。
 施設と保護者の個別の関係性は良好なケースが多い。今後はさらに保護者が自らの考え方・認知のゆがみに気づき子どもへの対応等に理解を促す家族プログラムや家族支援への取り組みを期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度、貴評価機関より沢山の項目について、丁寧な評価をいただきありがとうございました。受審結果につきましては、現在の客観的な評価と受け止めております。日ごろの支援を見つめ直す良い機会になりました。子ども本位の治療・支援や子どもの最善の利益に向けた治療支援、現場職員が常に寄り添い関わっている点について評価いただいたことは嬉しく励みにもなりました。今後は、ご指摘の課題を踏まえ、施設長をはじめ各職員がそれぞれに意識向上をはかり、より良い施設づくり、質の向上を図ってまいります。

⑨第三者評価結果 (別紙)

(別紙)

自己評価結果【タイプA】 (児童心理治療施設)

共通評価基準 (45項目) I 治療・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する治療・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
理念、基本方針は明文化されパンフレット、ホームページ等にも記載されているが、子どもや保護者への周知への取組は十分とは言えないことが見て取れた。職員の理解はもとより、子どもや保護者に向けて周知が図られるような取り組みを期待する。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果

①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、治療・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に治療・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

経営環境や経営状況の分析と動向については必要なデータを認識し、情報収集を行い課題を抽出しているが、把握・分析が十分とは言えない。また各種福祉計画等については内容把握が十分とは言えない。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や治療・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【判断した理由・特記事項等】

職員への周知の取組が十分とは言えず、各計画への反映においても具体的な取組が十分とは言えない。また、各種福祉計画等については内容把握が十分とは言えない。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

中長期計画については確認できたが、今後の施設のビジョンが議論されている中で、現時点における中長期としての目標を明確にすることが困難な状況であるとヒヤリングで確認した。
中長期計画を踏まえて単年度計画を策定することで、各計画の連動が可能となるため、より具体的な計画となることを期待する。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【判断した理由・特記事項等】

単年度の計画ではより具体的な居住環境の改善等を明確にし、修繕や必要物品の購入等子どもたちの生活に直結する計画を実施していることが確認できたが、中長期計画との連動性がみられない。組織体制や職員体制、事業展開等総合的な視点で中長期計画を策定し、それを踏まえて具体的な単年度事業計画を策定されることを望む。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

事業計画は施設長が提案しており、策定について職員の参画はない。施設長は職員に検討課題を挙げて種地に向けて共有するように説明しているが、意見の提出はない。今後は全職員が参画し、意見表明など策定に関わるとともに、評価・見直しが組織的に行われるよう体制を整備されることを期待する。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

事業計画はHPに載せ広報誌にも掲載しているが、子どもや保護者に周知されるような取り組みは行っていない。入所対象児童の対応等困難な面はあるが、今後は子どもや保護者への周知に向けての工夫を望む。

4 治療・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 治療・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく治療・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

PDCAサイクルに基づき、プランニングを行い実践後に修正し、さらに実践を深めるよう組織として取り組み、一定の効果を見ているが十分とは言えないことをヒヤリングで確認した。第三者評価は定期的を受診している。今後はPDCAサイクルに沿って評価結果を分析・検討し、改善策や改善実施計画を立て実施していくことを期待する。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○

	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	
【判断した理由・特記事項等】 自己評価をベースに施設長が課題を抽出し改善策や改善計画を提案し取り組んでいるが、職員の参画がない。今後は職員参画のもとで組織的計画的な取組を実施されることを期待する。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	b ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】 施設長は職務分掌において自らの役割と責任を明確にし職員への周知を図っているが、理解が十分ではないことが見て取れた。施設長の役割と責任について職員に表明し、さらなる理解を得る取組が望まれる。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	b ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】 施設長は遵守すべき法令等を理解し、全国施設長会議や協議会等において研修受講を行い職員への伝達を図っている。法令遵守に言及した職員研修も実施しているが十分とは言えないことがヒヤリングで確認された。今後は遵守すべき法令等をリスト化し、法令改正等には関係法令を抜粋・コピーする等で職員の理解を深めるような取り組みを期待する。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 治療・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。 <small>(5種別共通)</small> <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	b ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】		

施設長は教員免許及び児童福祉士の資格を保持し、児童自立支援施設で20年、知的障害者施設及び児童相談所で10年のキャリアを積み、信念をもって治療や支援に取り組んでいることをヒアリングで確認した。今後もさらに取り組みを進めていくことを期待する。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設長は経営の改善や業務改善に向け、給与や手当の改善、代休や時間外勤務の整備等に取り組んでいる。また支援の現場に積極的に参加し実効性を高めるよう努めている。今後は施設の人員配置や働きやすい環境整備等を念頭にさらなる取り組みを期待する。

2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

【判断した理由・特記事項等】

ハローワークへの募集や就職フェア等への参加など採用活動に努め、施設が求める人材及び資格保持者の確保につながっている。今後も求める人材像や資格基準などをホームページ等でも広く周知し、福祉や教育の大学へのアピール等に取り組まれ、さらなる人材育成と人員体制の充実に努められるよう望む。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

「期待する職員像等」を明確にしているが、人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明文化されていない。施設長は一人一人の職員と面談を実施しているので、今後も職員の意向・意見を把握するとともに、人事基準を明確にして職員等への周知がなされることを期待する。

(2)	職員の就業状況に配慮がなされている。	
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	

<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

施設長は支援・活動の現場に積極的に参加し、職員が働きやすい職場作りに向けてニーズの把握に取り組むとともに、職員との面談を実施し職員の意見を聴取し、ワークライフバランスへの配慮も実施しているが、職員への周知や具体的な改善策の実行・改善には課題があることが見て取れた。課題の解決に向けて、さらなる工夫を期待する。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 個別面談を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

施設長が面談において職員の意見を聴取し、個々の職員の取組等の評価を行っているが、目標設定がなされていない。今後は個々の職員の目標管理シート等を作成・活用し、質の向上に向けた取組を構築されることを望む。

② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 施設が目指す治療・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 現在実施している治療・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

「期待される職員像」は明文化され、個々の職員に必要な内部研修・外部研修が実施されているが、研修に関する基本方針や計画は定期的な評価・見直しを実施されていない。今後は研修内容やカリキュラムの評価を定期的にも実施することを期待する。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>

	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○
【判断した理由・特記事項等】		
職員のOJTが適切に実施され、外部研修への参加の機会を確保し、知識や技術水準に基づいて積極的に教育・研修を実施している。スーパービジョンの体制を確立し、生活部門は総括主任や主任指導員、心理部門では副主任がスーパーバイザーとして職員の相談に応じている。今後は個々の研修計画のさらなる充実を期待する。		
(4) 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種種に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
実習生の受け入れマニュアルを整備し、受け入れ態勢を整えているが、実習受け入れ数は多くない。今後は専門職の特性に配慮したプログラムを作成し各大学等へのPRを行うとともに、指導者研修の実施を期待する。		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
理念や基本方針、事業計画、事業報告、予算、決算情報は法人がHPで公開し、地域の福祉向上に向けて行事等は広報誌で情報提供に努めている。第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開を確認できなかった。施設の特性から情報公開に配慮が必要であるが、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開されるよう工夫を望む。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するとともに、外部の専門家(税理士等)による監査を実施し、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状况に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>児童・生徒の和太鼓演奏や海水浴場の清掃活動など地域のイベントに積極的に参加し、子どもと地域との交流を広げる取組を行っている。今後は交流に関する施設の基本的な考え方を文書化するとともに、地域の人々に向けたコミュニケーションや交流を通じてさらなる理解を深める取り組みを期待する。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>ボランティア受け入れマニュアルを整備し、受け入れに関する基本姿勢を明確にして、大学生による学習ボランティア、レクリエーション支援、理美容ボランティア、ドッグセラピーなど多種多様なボランティアを受け入れ、子どもの育ちを共に支える取組を実践している。</p>	
<p>(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>	
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>社会資源のリストを作成し、関係機関・団体と共通の課題に対して協働・連携して取り組んでいる。アフターケアの取組については、入所時に関係者会議を開催し、あらかじめ退所の目的を自立支援計画に盛り込んでいる。また、家庭支援専門員が窓口となり、治療や支援の継続性が保たれるよう相談に応じ関係機関との連携を図っている。</p>	
<p>(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>	
<p>① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。</p>	<p>b</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>児童家庭支援センターを併設し地域ニーズの把握を行うとともに、地域交流イベントへの積極的な参加を行い、地域の人々と交流する機会を設けている。今後も、施設の専門性を活かし福祉ニーズの把握に努められたい。</p>	

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する治療・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

地域と協定を締結し、災害時には地域交流ホール及びグラウンドを避難場所として提供すること等地域のニーズに対応している。併設の児童家庭支援センターと協力し、講演会の開催や心理士を地域の講演会の講師として派遣するなどの取組も実施している。今後の計画として、子どもの治療・支援に関する診療所の開設や子ども食堂の開設等を検討されているとのこと、地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業活動の展開を期待する。

Ⅲ 適切な治療・支援の実施

1 子ども本位の治療・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した治療・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した治療・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の治療・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもを尊重した治療・支援の実施について理念や基本方針に共通の理解を持ち、治療・支援の標準的な実施方法等の共通理解を図るため、職員一人一人に指導マニュアルを配布している。人権に関する研修を施設内外で実施・参加し、子どもの尊重や基本的人権への配慮について必要な対応を図っている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した治療・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者ごとの姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した治療・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【判断した理由・特記事項等】

規定・マニュアルを整備し、個人情報保護の視点をもちながら、医療情報や家庭環境などは、入所時のインテークから意識を高く持ち、組織としてプライバシー保護に配慮した治療・支援を実施している。子どもや保護者にも個人情報をもとより生活の場としての施設環境やプライバシーに配慮していることを説明している。

(2) 治療・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して治療・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、治療・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○

<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】
ホームページやパンフレット、「みらいの生活ノート」に治療・支援の基本方針や施設の特性について情報提供を実施している。また、開設10年を迎え法人パンフレットを刷新したが、施設パンフレットも今後刷新し子どもや保護者等に対するより良い情報提供について見直しを行っていく予定である。見学希望者・入所前見学等についても、適切に対応している。

② 31 治療・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う治療・支援について納得し主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【判断した理由・特記事項等】
入所時には子供と保護者に対して、治療・支援の開始やその過程に関する丁寧な説明を実施している。保護者には入所後も面会や電話で子ども様子を伝える同時に課題や取り組みについても説明している。

③ 32 治療・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり治療・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、治療・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】
措置変更や地域・家庭への移行に当たっては施設における治療・支援やサポートが地域においても継続されるよう、児童相談所や学校等連携機関と連携を密にしている。また移行過程で関係者会議を開催し治療・支援の継続性に配慮した対応を行っている。退所後も相談員をはじめ担当者や心理士が相談に応じている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。 第三者
評価結果

① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】
子どもへの個別の面接や聴取を実施するとともに、職員が子ども会に参加し子どもの満足度の把握に努めているが、満足度調査は実施されていない。今後は子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、アンケートの実施等の取組を行うことを期待する。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
---------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	治療・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】
 苦情解決要綱及び苦情解決マニュアルが整備されており、2名の第三者委員、苦情解決責任者、受付担当者を明確にして苦情解決の仕組みを確立している。子どもや保護者にも仕組みを説明して施設内にポスターを掲示している。苦情を受け付けたときはマニュアルに沿って対処し申出人に結果を通知している。意見箱に子どもからの苦情があった時は、公表できる範囲で掲示板に改善案などの返答をわかりやすく掲示している。苦情受付から解決までの経過と結果を記録、保存して運営に反映する資料としている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】
 下駄箱のそばに意見箱を設置するとともに、入所時に配布する「みらい生活ノート」「権利ノート」の中にも相談方法について記載されており、職員がわかりやすく説明している。子どもが職員を信頼して自由に相談したり意見を表明できる関係づくりに取り組み、十分に意思を表明することができない子どもについては表情や態度からも子どもの思いを受け取り、子どもの代弁者としての役割をも果たすよう努めている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の治療・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】
 子どもの声に耳を傾け、職員間で意見や要望を共有して必要な対応を迅速に取るよう努めている。相談の内容によっては、必要に応じた検討メンバーを決めて対応している。子どもが理解して納得できるように、返答は年齢や能力に配慮して説明を行っているが、組織的な取り組みには至っていない。今後は、相談を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について具体的に定めた対応マニュアルを整備するとともに、適時見直ししながら、より適切に対処して、施設運営に反映させていくことを期待する。

(5)	安心・安全な治療・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
①	37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<input type="checkbox"/>	リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
夜間・緊急時の対応マニュアル及び危機管理マニュアルを整備して、その中で事故発生時の手順等を示すとともに、子どもと職員の安全・安心を囲り事故を未然に防ぐためにヒヤリハットの取り組みを行っている。リスクマネジメントに関する責任者は明確にしているが、委員会の設置は未だ行われていないので、実施状況や実効性について定期的な評価・見直しを行うことができるよう、今後、リスクマネジメントに関する委員会を設置して体制を整備していくことを期待する。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
看護職員を常勤配置し安全確保の体制が作られ、看護師を責任者として勉強会も行われている。危機管理マニュアルに、疾病、感染症の項目があり、インフルエンザ、ノロウイルスについては、それぞれ感染症予防マニュアルが作成されていて、予防、感染防止の手順等を職員に周知徹底している。昨年のインフルエンザの流行期には、日常の中で、手洗い、うがい、アルコール消毒「ワンタッチ運動」を徹底し、昨年からのインフルエンザの罹患者は0となっている。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。 <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	b
【判断した理由・特記事項等】		
避難訓練が毎年実施されており防災に関する講習も毎月行われている。食料の備蓄は3日分確保されている。災害時の対応マニュアルが整備され組織的に取り組まれているが、安否確認の方法など周知徹底できていないところもある。今後は、訓練の実施体験等をもとにマニュアルを適時見直し、災害発生時によりスムーズに対処できる体制の整備が望まれる。また、「事業継続計画」を策定し非常時に施設の機能を維持するために必要な対策を講じておくことを期待する。		

2 治療・支援の質の確保

(1) 治療・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 40 治療・支援について標準的な実施方法が文書化され治療・支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	b
【判断した理由・特記事項等】	
標準的な実施方法として支援に必要な内容の複数のマニュアルを集めた「支援の手引き」のファイルを各職員に配布して標準的な実施方法の周知徹底を図っているが、適切に実施されているかを確認する仕組みは整備されていない。今後、当該施設の状況の下で「支援の手引き」に記されている標準的な実施方法の内容を精査し、どの職員も理念に基づいて差異なく一定の水準の行動がとれるために活用できるようにしておくとともに、実施状況を確認する仕組みを整備することが望まれる。	
② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。 <input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	b

<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【判断した理由・特記事項等】

標準的な実施方法についての検証・見直しは施設長の管理の下で定期的に行われているが、文書の改訂記録や検討会議の記録は確認できていない。支援環境や子どもたちの変化、新たな知識や技術の導入を踏まえ、常に現状に即したものとして活用できるように定期的に検証・見直しを行う仕組みを確立して、内容を記録に残しておくことが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な治療・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な治療・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

入所前に児童相談所が行ったアセスメント資料を基に、インテーク面接から入所後2カ月の行動観察を加えてアセスメントを行い、多職種が協議して入所した子ども一人ひとりの自立支援計画を策定する仕組みを確立している。自立支援計画は心理士による心理治療アプローチを生活の中に取り入れた内容となっている。同敷地内に市立小・中学校の分校が置かれていることから、自立支援計画には学校が記入する欄もあり、学校の協力も得られている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに治療・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の充実にについて、充直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に簡知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、治療・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、治療・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

多職種の職員によるカンファレンスが行われ半年に1回の見直しが行われているが、検討内容を見直し改善に至るプロセスが分かる内容の記録が不十分であり、見直し後の自立支援計画に、目標の妥当性や解決方法の有効性に関する検証が十分反映できていない部分もあるなど、PDCAサイクルの継続実施が十分機能しているとは言いがたい。今後は緊急時の見直しを含めて、目標に向けての支援内容、支援効果を検証する手順を定めて評価、見直しを行い、より良い支援に繋げていけることを期待する。

(3) 治療・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する治療・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく治療・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		○
【判断した理由・特記事項等】 多職種が必要な情報をパソコン上で共有できるネットワークシステムが導入されていて、組織的な管理が円滑に行われている。職員がその都度記録した連続した内容の情報を項目別に確認できる統一された様式となっていて、問題行動だけに着目せず良い行動や評価できる点も記入されており、日々の支援に活かしている。		
②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○
【判断した理由・特記事項等】 子どもの記録管理責任者は施設長であり、パソコン室及び書庫を保管場所と決め施設管理を実施している。職員は個人情報保護規定について理解は出来ているが、職員研修や教育は実施されていない。今後は個人情報の取り扱いが適切に行われているかを定期的に確認するとともにマニュアルを見直すことが望まれる。また、適切に管理するために、データの保管、永久保存、廃棄、漏洩防止等について、より具体的に示して研修等で職員に周知することを期待する。		

内容評価基準（20項目）

A-1 子どもの最善の利益に向けた治療・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	A1 一人ひとりの子どもの最善の利益を目指した治療・支援が、総合環境療法を踏まえた多職種連携の取り組みで実践されている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画に、子どもの課題の解決に向けて福祉、心理、医療、教育の連携による総合的治療・支援方針が策定され、支援が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々の治療・支援について振り返り、子どもの最善の利益の観点から、必要に応じて助言を受けられる環境や相互研鑽ができる体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに心理治療担当を配置し、必要に応じて個別心理療法および集団によるコミュニケーション活動及び表現活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 精神科的医療ケアの必要な子どもに対して必要に応じて、児童精神科医等の診療を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 重篤なケースについては、入院治療が必要になる場合に備え、外部の医療機関と連携し、必要に応じて話し合い等を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】 施設全体が治療の場である総合環境療法の実践に向けて、子どもの最善の利益を考慮して試行錯誤しながらも前向きに取り組んでいる。すべての子どもに心理療法士による週に1回50分のセッションでセラピー、カウンセリングが行われており、2週間に1度の嘱託の児童精神科医による相談の体制がとられている。面接室で行われる狭義の心理面接だけでなく、職員は毎日の生活のなかで、一人ひとりの子どもの状況に配慮した関わりに努めている。		
②	A2 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもから相談を受けたり生活場面でのことについて、個別に話し合ったりする機会や一緒に活動する時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設生活において多種多様な生活体験（創作活動など）を通して、ものごとを広い視野で具体的、総合的にとらえる力や、豊かな情操が育まれるような活動が組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもの発達段階や課題に応じて、日課は出来るだけ柔軟に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、行動上の問題等があった場合も背景にある心理的課題の把握に努め、自己を向上発展させるための態度が身に付けられるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の解決に当たって、膝慮に他から学び、他と協力していける力量や態度を形成できるようグループ活動などを取り入れ支援している。	○
【判断した理由・特記事項等】		

一人ひとりの子どもに担当職員を決め、誕生日には担当職員と2人で夕食したり子どもの提案と一緒に過ごす時間を持つなど、担当職員を中心とした信頼関係の構築に努めている。スポーツ、和太鼓などの集団活動や園芸、昆虫飼育などの生活体験を通して心理的な背景を理解し、学びと成長による課題の解決を図っている。

③	A3 子どもの発達段階に応じて、さまざまな生活技術が身に付くよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物をする体験、一人で買物をする体験などを通して、経済観念や店員とのやり取りなど地域生活に必要なスキルが身につくよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 小遣いの使途については、子どもの自主性を尊重し、 unnecessaryな制限を加えず、計画的な使用等金銭の自己管理ができるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、電話の応対、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域での生活を見据えて、発達段階に応じて一人での受診や、市役所、図書館、郵便局などの公共機関、交通機関を利用するなど、様々な生活技術を学ぶプログラムを実施している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

一人で地域に出る機会は少ないが、職員と一緒に外出する買い物等の体験の中で、生活技術が身につくよう支援している。小遣いは全額施設で預かっているが、使途についてはできるだけ子どもの自主性を尊重して金銭の自己管理ができるよう支援している。

④	A4 子どもに暴力・不適応行動などの行動上の問題があった場合には、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題がある子どもについては、訴えたいことを受け止めるなど問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激等の要因、人的・物的環境との因果関係を分析し治療・支援を行うとともに、自分の意思を伝えるための適切な方法を学ぶ機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、その特性等をあらかじめ職員間で情報の共有化をはかり連携して対応できるようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを心身を傷つけずに対応するとともに、周囲の子どもの安全を図っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 百傷一善の危険性が極めて高いと判断されるなど、子どもの安全確保等のために他に取るべき方法がなく、子どもの最善の利益になる場合に限り、マニュアルに基づいて行動等の制限が最小限の範囲で行われ、その記録が残されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 行動等を制限するケアについて、具体的な例を示して職員に周知するとともに、子どもに知らせ、子どもが納得できない場合、苦情解決制度やその他の方法を用いて改善を求めたり意見を述べることを知らせている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

暴力・いじめ等児童の人権侵害発生時の防止と対応マニュアルを作成し、当事者への指導、児童の把握・見守りの徹底を行っている。行動上の問題のある子どもについては、できる限り子どもの理解、納得が得られるよう説明して最小限の範囲で行動等の制限を行っている。

(2) 子どもの意向への配慮や主体性の育成

①	A5 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちのこととして主体的に考えるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分および自分たちの生活がより良くなるように考える機会(個人面談、子ども会など)をさまざまに用意している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 活動、行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重し、自発的な参加となるように支援し、日常生活を含め行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動(施設内の子ども会、ミーティング等)を実施し、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう、職員は必要な支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に小集団活動、行事の企画・運営に関わることができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 活動で決定した要望等について、施設や職員は可能な限り応えている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

施設の特質上、行動上の問題を含む様々な状況の子どもが生活する中で、安全確保と子どもの意向を両立させていく難しさはあるが、できる限り子どもの意思を尊重し、誕生日の過ごし方を自分で決めるなど、子どもが主体的に考え行動できる機会を持てるよう支援している。

②	A6 子どもの協調性を養い、他者と心地よく過ごすためのマナーや心遣いができるように支援している。	a
---	--	---

<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 社会生活の規範等守るべき約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、それらを尊重した行動をとるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出や買い物など社会的ルールを習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】
 社会生活で困ることがないように、ルールやマナーを日常生活の中で習得できるよう支援している。安全を考慮して、行動上の問題を抱えた子どもとのトラブルを回避するために個別的なルールが必要になることがあり、職員間で協議の上、子どもの意向に反する決まりを設ける場合もあるが、子どもとの話し合いの中で了解が得られるように心がけて、一人ひとりの子どもを守るための最善の方法であることを丁寧に説明している。

(3) 子どもの権利擁護・支援

① A7 子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。	c
<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、施設としての基本的な考え方や方針が明示され、それに基づく規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた治療・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもとの関わりが得られない親の対応に、適切な親権の行使として未成年後見制度などの活用を視野に入れた支援を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に学習や検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの保護のために、児童虐待防止法12条の「面会等の制限等」を適切に行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】
 「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の保障に施設としての方針を示し、外部研修に積極的に参加して内部研修や会議でも扱い重要視して取り組んでいる。4か月前にマニュアルが整備されているが、権利侵害の防止、早期発見等の具体的な取り組みが浸透し、職員間で共通理解を持ち養育実践の場に十分反映できている状況には至っていない。今後さまざまな取り組みを実践していく中で、課題を踏まえた取り組みが展開され、あらゆる面で権利侵害がないように子どもを守っていくことを期待する。

② AB 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの状態に応じて権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料を使用して日常生活の中で起こる出来事を通して、守られる権利について子どもたちに説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などの問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行うとともに、起こった場合の早期対応について子どもや職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設だけでは暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】
 権利ノート、「みらい」の生活ノートを入所時に配布し、分かりやすく説明するとともに、子ども会や日々の生活の中で自分や相手を大切にするための話し合いの場を設けている。週1回の心理士によるセラピーの中で子供からの訴えやサインが確認されたときは早期に対処できるよう支援している。

(4) 被措置児童虐待の防止等

① A9 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の観点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「被措置児童等（施設内虐待）防止マニュアル」が整備され不適切な関わりの防止に取り組んでいる。マニュアルに、届出・通告義務についても記載されており施設としてのルールも定められているが、全職員が熟知するには至っていない。不適切なかかわりの防止について体制を整備して具体的な対策を講じるとともに、不適切な関わりが生じたときは施設内だけで対処することなく、必ず届出・通告制度に則り、全職員が適切に行動、対処できる仕組みの整備を期待する。		

A-2 生活・健康・学習支援

(1) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身につけることができるよう食育を推進し、皆と一緒の食卓で楽しく食べられることを目指して一人で食べることから始めるなど、プロセスを踏むことが保障されている。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会を持ち、食文化を継承できるようにしたり、外食の機会を設け、施設外での食事を体験させている。	○

【判断した理由・特記事項等】

給食委員会が設置されており栄養管理され調理員が厨房で調理した食事が食堂で提供され、子供のリクエストメニューも実施している。広い食堂のテーブルは男女別年齢別に席が定められていて職員も一緒にテーブルにつき全員が一斉に食事をしている。安全性に配慮して陶器の食器は使用されていない。食育の一環として中高部、小学部で調理実習を実施して、献立作成から食品購入、基礎的な調理技術の習得、片付けまで子どもが主体的に体験できる機会を作っている。誕生日には担当職員と外食する機会も設けている。

(2) 衣生活

①	A11 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、整理整頓、洗濯やアイロンがけ、衣類の補修等、子ども自身でできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選び、購入できる機会を設け、個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持つようになっている。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保され、常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて、TPOに合わせた服装や自己表現ができるよう配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員と一緒に買い物に出掛けて衣類を購入している。年齢に応じて自分の好みに合った衣服を予算に合わせて選んで購入し、TPOに合った服装や自己表現ができるよう支援している。高学年の子どもは自分で洗濯を行っている。制服のアイロンかけ等についても自分でできるよう支援している。

(3) 住生活

①	A12 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 居室は、自分の空間であることを認識する場であるとともに、発達段階や課題に合わせた安心できる空間となっており、リビングスペース等くつろげる空間を確保するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や発達状況にあった、空間や家具、生活機材が用意されている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 居室の清掃や補修など、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 防犯のためのオートロックや防犯カメラなどを設置している。	○

【判断した理由・特記事項等】

大舎制の建物の施設で内部の廊下の左右の壁は装飾がなく大部分が白で統一されている。男女別のスペースにある居室は4人部屋、2人部屋、1人部屋があり、それぞれの子どもの私的な空間となるよう配慮されていて、自分の部屋以外には立ち入らないルールが定められている。食堂は共用スペースとして解放されテレビが設置されている。大舎制の集団生活であり管理的な住環境にならざるを得ない面はあるが、子どもが長期間暮らす生活の場として、できるだけ家庭的な温もりを感じくつろげる空間となる住環境の工夫が望まれる。

②	A13 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 居室の整理・整頓、掃除の習慣や洗濯、ふとん干し、各居室のごみ処理などの生活習慣を身につけられるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 戸締り、施錠の習慣や、電灯、エアコンなどの操作を身につけられるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自分の部屋や共有空間についての様々な工夫について子どもの意見を取り入れている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 掃除機や洗濯機、ドライヤーや電気剃り器等の生活に関わる機器の使用に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 建物・設備の軽度な破損について、簡単な修理を体験できるように配慮している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

共用空間は清掃担当の職員が行っているが、各居室の清掃は子どもの生活日課に組み込み、登校前や休日に整理整頓や掃除をする時間を設けている。生活の中で掃除機や洗濯機、アイロン、ドライヤーなどの生活機器を操作しながら、できるだけ生活に必要な体験を習得できるよう支援しており、ベッドのネジのゆるみ等簡単な修理は子どもが自分でやっている。

(4) 健康と安全

①	A14 発達段階に応じて、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員が適切に把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗面、歯磨き、入浴時に体や髪を洗うことなど清潔を保つための支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分の体調について注意を払うように支援し、体調について相談しやすいように努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故防止など、様々な危険から身を守るため、交通ルールや外出時の注意点、緊急時の対応の仕方等について日頃から子どもに教え、準備をしている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

一人ひとりの子どもに担当の職員を決めて日常生活の中で子どもに寄り添って、体調についても注意深く観察していて、発達に応じて、洗面、歯磨き、入浴等の生活習慣を身につけながら、健康管理が行われている。インフルエンザの流行期には、手洗い等で、感染しないよう取り組んでいる。施設の特質上外出の機会が少ないので、DVD等なども使用して、交通ルールを守って安全な行動をとれるよう支援している。

②	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の医療機関との連携により、必要な受診に即応できる体制がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもや服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 薬物の管理及び服薬の手順を施設として定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 様々なアレルギーへの対応や、救命救急対策などについて組織的に行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

看護師を中心に健康状態や発育・発達状態を把握し、生活職員と連携して取り組んでいる。服薬の管理及び手順は組織内のルールを定めて看護師の指示で行い、子どもに服薬の必要性を説明しているが拒否によって服薬できない場合もある。服薬について、子どもの気持ちを尊重して十分話し合う中で、適切な服薬管理が行われることを期待する。

(5) 性に関する支援等

①	A16 子どもの年齢・発達段階等に応じて、性をめぐる課題に関する支援等の機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて性に関する支援の基本的な考え方、方針を定めている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 性被害、性加害など性に課題のある子どもに対する支援を自立支援計画をもとに行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年齢、個々の状況、発達段階に応じて、性をめぐる諸課題について支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をめぐる不適切行動を予防する取組をしている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】		
性問題のケースが増加する傾向にあり、その都度生活場面で具体的な支援を行っている。年齢に応じて正しい知識と行動を身につけることができるよう外部のSSTへの参加も取り入れ、夏休みや春休みには性教育の講座を連続して行っている。性教育委員会が中心となり職員の研修にも力を入れているが、職員間で共通認識を持った取り組みには至っていない。今後、職員間で方針を共有して、不適切行動の予防、問題把握・早期対応の手順など、組織全体で取り組んでいくことを期待する。		
(6) 学習支援、進路支援等		
①	A17 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援に取り組み、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に子ども個々の学習に対する構え、学力を把握し、それらに応じた個別的な学習支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の子どもたちのための方針や方針などの学校教育が用意され、日々子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保され、個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に連携して実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意したり、学習支援のため、ボランティアの協力を得るなどの配慮をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた子どもの行動上の問題に対しては、学校に協力して対応し、ケースカンファレンスには原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	
【判断した理由・特記事項等】		
小・中学生のほとんどが同じ敷地内の分校に通学しているため子供の情報を共有しやすく、自立支援計画の中に学校側が記入する欄も設けられている。子どもの特性に応じた教育の場が用意されていて、分校以外に本校、支援学校に通う子どもが数名いる。学力向上に力を入れて取り組み、施設内に学習室を用意して外部委託も取り入れて学習の環境を整えている。退所後の支援は併設の児童家庭支援センターと連携して行われており、施設としては積極的に行なっていない。		

A-3 通所支援

(1) 通所による支援		
①	A18 施設の治療的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 様々な通所プログラムを策定し、子どもの自立支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもの生活実態を的確にとらえ、それに基づき適切な支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもや家族の支援として通所支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	
【判断した理由・特記事項等】		
通所の機能は持っていない。通所による支援は同じ建物に続いて併設されている児童家庭支援センターで行われており、必要に応じて情報を共有している。		

A-4 支援の継続性とアフターケア

(1) 親子関係の再構築支援等		
①	A19 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立し、家族関係の再構築に向けて支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の基本方針等に、家族への支援や家族療法等に関する基本的な考えや姿勢が示されている。	
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに家族担当を設け、日常的な連絡や気軽な相談の窓口として活用できるよう案内し、子どもの日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を定期的に家族に伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族の関係の再構築、家族再統合が可能となるように、児童相談所と協力して親子関係の修復や保護者等の養育力の向上のためのプログラムを継続的に実施している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもの家族との交流について、子どもの意思を尊重し、面会、外出、一時帰宅については、児童相談所等と協議し、個別性に配慮しながら、一定のルールや基準を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような設備を施設内に設けて、家族支援の趣旨に沿った活用がなされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

家族からの相談に応じる体制が用意され併設の児童家庭支援センターとも連携して必要に応じて面接、訪問等を行っているが、家族支援は児童相談所が主であり、施設として家族再構築に向けた積極的な働きかけは行っていない。今後は、単に親子の交流や面会を促進するという視点ではなく、子どもの問題行動の背景にある家族病理の理解に基づく子ども・家族への支援に施設の持つ役割として高度な専門性が求められる。

②	A20 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 通所機能や外来機能を利用して、退所後の支援を継続して行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後何年経っても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関と連携し、退所後の生活の支援体制の構築に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

退所後の相談窓口は設けているが、退所後の支援は併設の児童家庭支援センターの通所機能や外来機能を通して行われることもあり、退所者の状況把握、退所後の支援は積極的に行われていない。今後は退所者が集まれるような機会を設けるなどのアフターフォローにも取り組んでいくことを期待する。

